

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（令和5年度報告）

熊本県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

熊本県では、45市町村が被害防止計画を策定している。
被害防止計画の対象鳥獣としては、令和5年度の農作物被害額のうち約7割を占める「イノシシ」、「シカ」を全市町村が対象鳥獣に位置づけており、他の主な獣類としては、、「サル」を宇城・上益城・阿蘇・球磨地域等の山間部の市町村が中心に対象鳥獣に位置づけている。鳥類では、被害の大きい「カラス」、「ヒヨドリ」を中心に対象鳥獣として位置づけており、近年県内での被害が増加している「カモ」については、熊本・宇城・玉名・八代地域の干拓地のある地域の市町村を中心に、対象鳥獣に位置づけている。
被害防止対策としては、有害捕獲、被害防除を中心に、生息環境管理を併せて総合的に実施する計画となっており、必要に応じて専門家を関係機関に派遣するなど技術的な助言を受けながら対策に取り組む計画としている。
広域被害防止計画の策定については、平成23年3月末では複数市町村を範囲とした計画を作成している地域はなかったが、現時点で10市町が広域計画に変更（計3計画）し、広域的な被害対策を実施することとしている。

2 事業効果の発現状況

事業実施地域では、地域協議会を中心に被害防止対策の実施体制を整備・強化するとともに、研修会や検討会の実施により、被害対策技術の習得による人材育成に努めている。特に捕獲の担い手については、高齢化や担い手不足を解消するため、免許取得講習会の補助を行うなど積極的な推進を行った結果、近年は、狩猟免許合格者は増加している状況である。
また、地域協議会が本事業によりわなを導入するとともに、市町村や県の捕獲報奨金等の補助を活用し積極的な捕獲を推進した結果、県全体の有害捕獲頭数については、増加傾向である。
本事業により侵入防止柵の設置や追い払い活動を実施した地域においては、鳥獣の侵入防止効果が発現され被害が減少している。

3 被害防止計画の目標達成状況

熊本県全体の令和5年度農作物被害額は、令和4年度より約59, 217千円（10%）減少し、5. 38億円となった。前年度よりカモの被害額は減となったが、イノシシ、シカの被害額が増となっている。
今回の評価報告対象の19市町村（事業評価10市町村、再評価9市町村）では、被害防止計画目標の達成率については、7市町村（事業評価7市町村）は目標を達成し、一定の成果があがっている。一方で、12市町村（事業評価3市町村、再評価9市町村）で目標達成率が70%未満と低調という報告となった。
今後とも、事業実施市町村と一層連携を強化し、捕獲・防除・生息環境管理に係るソフト・ハードの取り組みを総合的に実施していくとともに、農業者以外の地域住民を含めた地域ぐるみの被害対策を積極的に取り入れるなど、有効的かつ効果的な総合対策を実施していく。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 （協議会名）	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
宇城市	宇城市	R3～ R5	イノシシ	緊急捕獲	イノシシ 6,466頭	宇城市			捕獲による個体数調整の結果、水稲・果樹・いも類の被害の減少	29,540	27,388	165.4%	9.7	8.6	194.4%	イノシシの捕獲頭数は増減を繰り返し、捕獲による個体数調整が図られている一方、シカ・アナグマの捕獲頭数は年々増加しており、生息数の増加が懸念され、被害防止計画の目標達成には至らなかった。 今後、シカ・アナグマの個体数調整に向け、協議会で のわなの導入を継続し、捕獲効率の高い場所への設置により、捕獲数増加を図る必要がある。	宇城市鳥獣害防止対策協議会のわな等各種事業整備を進めたことも相まって、鳥獣ごとに増減はあるものの、全体としての被害金額及び被害面積については目標値を達成しており、一定の効果を上げていると考えられる。 (熊本県県央広域本部宇城地域振興局 参事 渡邊 容子)	被害金額・被害面積とともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。
			カラス類	緊急捕獲	シカ 2,554頭					18,790	11,437	451.8%	4.5	2.4	524.0%			
			タイワンリス	緊急捕獲	アナグマ 455頭					0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%			
			ニホンジカ							4,750	7,436	-406.8%	1.6	1.7	33.3%			
			ヒヨドリ							1,150	948	255.4%	0.3	0.2	400.0%			
			ニホンザル							0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%			
			アライグマ							0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%			
			アナグマ							2,060	3,630	-582.6%	0.8	1.1	-333.3%			
			カモ類							2,750	1,250	583.9%	0.5	0.3	123.8%			
			タヌキ							270	4	986.7%	0.2	0.0	995.0%			
										計 59,310	計 52,093	計 209.2%	計 17.4	計 14.3	計 259.4%			
宇城市鳥獣被害 防止協議会	宇城市	R3～ R5	イノシシ	有害捕獲	箱わな 30基	宇城市鳥 獣害防止 対策協議 会	R3～R5	・わなによるイノシシの捕獲 R3:1,839頭 R4:2,272頭 R5:1,851頭	・わなによるシカの捕獲 R3:646頭 R4:813頭 R5:901頭	29,540	27,388	165.4%	9.7	8.6	194.4%	イノシシの捕獲頭数は増減を繰り返し、捕獲による個体数調整が図られている一方、シカ・アナグマの捕獲頭数は年々増加しており、生息数の増加が懸念され、被害防止計画の目標達成には至らなかった。 なお、柵設置地区では効果的な捕獲により被害は減少傾向にあるが、柵未設置地区に鳥獣被害が移行し、毎年新たな地区からの被害報告が続いている。今後も侵入防止柵設置の啓発が必要。 ジビエ加工施設で食肉処理を行った頭数は地域内で防護柵の設置が進んだ事を背景に、獲せた個体が多く横ばいに推移している。	鳥獣ごとに増減はあるものの、全体としての被害金額及び被害面積については目標値を達成しており、一定の効果を上げていると考えられる。 (熊本県県央広域本部宇城地域振興局 参事 渡邊 容子)	被害金額・被害面積とともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参
			カラス類	有害捕獲	くぐりわな 227基					18,790	11,437	451.8%	4.5	2.4	524.0%			
			タイワンリス	有害捕獲	くぐりわな(ねじりバネ式)導入 240基					0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%			
			ニホンジカ	有害捕獲	くぐりわな(押しバネ式)導入 195基					4,750	7,436	-406.8%	1.6	1.7	33.3%			
			ヒヨドリ	侵入防止柵	電気柵設置 L=25,592m					1,150	948	255.4%	0.3	0.2	400.0%			
			ニホンザル	侵入防止柵	ワイヤーメッシュ柵設置 L=30,722m					0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%			
			アライグマ	ジビエ販売拡大支援	ジビエ利用拡大(パンフレット作製) 3,000部					0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%			
			アナグマ	ジビエ販売拡大支援	ジビエ利用拡大(技術指導) 6回					2,060	3,630	-582.6%	0.8	1.1	-333.3%			
			カモ類	ジビエ販売拡大支援	ジビエ利用拡大(衛生管理指導) 3回					2,750	1,250	583.9%	0.5	0.3	123.8%			
			タヌキ	ジビエ販売拡大支援	ジビエ利用拡大(商品開発アンケート調査) 2回					270	4	986.7%	0.2	0.0	995.0%			

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
									R5:92頭 ・ジビエの取引先数 R3:44件 R4:75件 R5:80件							一方、ジビエの取引先数は知名度の拡大や本州での豚熟等の要因により年々増加している。		考にしてください。 宇城市では果樹の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないよう、収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
甲佐町	甲佐町	R2～R5	イノシシ シカ サル カラス	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ 876頭 シカ 316頭 サル 4頭 カラス 77羽	甲佐町			罨及び駆除隊による捕獲 ・イノシシ R2:207頭、R3:146頭、R4:282頭、R5:241頭 合計876頭 ・シカ R2:33頭、R3:30頭、R4:80頭、R5:173頭 合計316頭 ・サル R2:0頭、R3:0頭、R4:1頭、R5:3頭 合計4頭 ・カラス R2:19羽、R3:13羽、R4:16羽、R5:29羽 合計77羽	計 59,310 12,056 72 492 39	計 52,093 11,174 380 1,985 73	計 209.2% 129.3% -1521.1% -1104.0% -240.0%	計 17.4 6.3 0.1 0.3 0.1	計 14.3 11.9 0.4 0.7 0.2	計 259.4% -255.4% -1500.0% -514.3% -166.7%	当事業による電気柵及びWM柵の設置に伴い、イノシシの被害減少を図ることができた。近年はサルの被害が増加傾向にあるため、整備内容をサルにシフトしていく必要があると思われる。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 甲佐町では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 (熊本県県央広域本部上益城地域振興局 農業普及・振興課 参事 富永純司)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 甲佐町では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。	
甲佐町 (甲佐町鳥獣被害防止対策協議会)	甲佐町	R2～R5	イノシシ シカ サル カラス	侵入防止柵 侵入防止柵 有害捕獲 有害捕獲	電気柵設置 L=14,451m WM柵設置 L=4,701m 箱罨導入 3基 くくりわな導入 72基	甲佐町鳥獣被害防止対策協議会	R2～R5	100%	・電気柵及びWM柵設置による被害の減少 ・箱罨設置によるイノシシの捕獲	計 12,659 12,056 72 492 39	計 13,612 11,174 380 1,985 73	計 69.9% 129.3% -1521.1% -1104.0% -240.0%	計 6.8 6.3 0.1 0.3 0.1	計 13.2 11.9 0.4 0.7 0.2	計 -279.3% -255.4% -1500.0% -514.3% -166.7%	当事業による電気柵及びWM柵の設置に伴い、イノシシの被害減少を図ることができた。近年はサルの被害が増加傾向にあるため、整備内容をサルにシフトしていく必要があると思われる。 事業の対象鳥獣であるイノシシ、シカについては、目標値を達成していないものの、昨年度よりは減少しており、事業効果は出てきていると考えられる。一方で、サル、カラス被害が増加しているため、サル、カラス対策についても今後検討する必要があると思われる。サルやカラスの対策は、イノシシやシカへの対策以上に難しいと思われるため、協議会メンバー、地域生産者とも、まずはどのように対策をするのか勉強し、十分な知識を持って対策にあたるのが重要であると思われる。	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 甲佐町では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。	
										計 12,659	計 13,612	計 69.9%	計 6.8	計 13.2	計 -279.3%			捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
菊池市有害鳥獣 捕獲協議会	菊池市	R2～ R5	イノシシ	侵入防止柵(新設)	WM柵 延長148,366m	菊池市有 害鳥獣捕 獲協議会	R2～R5	100%	イノシシ捕獲頭数 R2 708頭、R3 955頭、R4 1,018頭、R5 1,217頭	745	42,483	-22219.8%	0.7	54.3	-26700.0%	イノシシの被害が大幅に増 加しているため、令和5年 度・6年度を捕獲強化期間 とし、協議会で捕獲活動に より力を入れている。 狩猟免許の取得費補助を 行うことで、財政面からの 支援も継続的に行ってい きたいと考えている。	昨年度のイノシシ・シカ生 息状況調査では推定生息 数が増加傾向にあり、捕獲 対策の強化は行われてい るものの、被害の減少には 至っていない。そのため、 侵入防止対策の継続・拡充 に努めていく必要がある。 (熊本県県北広域本部農業 普及・振興課 主幹 林田 稔)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成 していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域 ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を 組み合わせた総合的な対策を推進してい る。現状でも、総合的な対策を意識しなが ら、対応いただいているが、ほ場周辺の環 境整備や柵の管理等について、より対策 を徹底していただきたい。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、 被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参 考にしていきたい。	
			カラス類・ハト類	侵入防止柵(復旧)	WM柵 延長124m				ニホンジカ捕獲頭数	3,836	3,426	142.7%	2.1	0.9	334.0%				
			タヌキ	侵入防止柵(新設)	電気柵 延長47,970m				イノシシ 3,898頭										
			ノウサギ	緊急捕獲	イノシシ 3,898頭				・WM柵整備面積 R2 53.68ha、R3 80.43ha、R4 34.00ha、R5 44.15ha										
			ニホンジカ	緊急捕獲	ニホンジカ 708頭				・電気柵整備面積 R2 5.35ha、R3 19.10ha、R4 15.44ha、R5 5.66ha										
			アライグマ	緊急捕獲	カラス類 428羽				・狩猟免許取得助成による狩猟者の育成 R2 6人 R3 3人 R4 6人 R5 4人										
			カワウ	有害捕獲	箱罠導入 4基														
				有害捕獲	狩猟免許助成 19人														
										計 4,581	計 45,909	計 -3,503.1%	計 2.8	計 55.2	計 -7,072.6%				
大津町有害鳥獣 対策協議会	大津町	R2～ R5	イノシシ	有害捕獲	はこ畧 24基	大津町有 害鳥獣対 策協議会			ICT等新技術の活用により、以前より効率良くはこ畧の運用 ができた。	592	3542	-232.2%	0.22	1.2	-191.2%	近年、大津町における対象 鳥獣の出没が増加している ため、今後は電気柵の正し い設置の周知・普及に取り 組み、関係機関との連携を 引き続き強化する必要がある。	昨年度のイノシシ・シカ生 息状況調査では推定生息 数が増加傾向にあるため、 町単独事業による侵入防 止対策に加え、国庫事業を 活用をした侵入防止対策を 検討していく必要がある。	(熊本県県北広域本部農業 普及・振興課 主幹 林田 稔)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成 していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域 ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を 組み合わせた総合的な対策を推進してい る。現状でも、総合的な対策を意識しなが ら、対応いただいているが、ほ場周辺の環 境整備や柵の管理等について、より対策 を徹底していただきたい。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、 被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参 考にしていきたい。
			カラス	有害捕獲	はこ畧(大型) 1基				・大津町鳥獣被害対策実施隊並びに大津町有害鳥獣捕獲 隊にはこ畧等の貸出しを行い、鳥獣被害の減少を図れた。	-	0	-	-	0.0	-				
			ニホンジカ	有害捕獲	くくり罠 87基					-	344	-1710.5%	-	0.1	-120.0%				
			ニホンザル	有害捕獲	捕獲用手袋 2双				156	254	58.1%	0.06	0.1	112.5%					
			アナグマ	有害捕獲	捕獲用網 1個				23.6	776	-2025.4%	0.01	0.2	-1300.0%					
			タヌキ	有害捕獲	補てい具鼻くくり 2個				14	76	-195.2%	0.01	0.0	-					
			アライグマ	サル複合対策	サル調査用GPS 1式				-	0	-	-	0.0	-					
				サル複合対策	サル捕獲業務委託 1式														
				ICT等新技術の活用	長距離無線式捕獲/パトロールシステム(親機1台、子機9台) 1式														
				ICT等新技術の活用	長距離無線式捕獲/パトロールシステム 12個														
				ICT等新技術の活用	はこ畧用捕獲センサー導入 9個														
				ICT等新技術の活用	センサーカメラ 12個														
				ICT等新技術の活用	デジタル簡易無線機 12個														
				ICT等新技術の活用	狩猟犬用無線機 1式														
				緊急捕獲	イノシシ(成獣) 523頭														
				緊急捕獲	シカ(成獣) 448頭														
				緊急捕獲	イノシシ(幼獣) 204頭														
				緊急捕獲	シカ(幼獣) 1頭														
				緊急捕獲	カラス 102羽														
										785.6	4992	計 -251.3%	0.3	1.6	計 -162.5%				
山鹿市 (熊本・山鹿地 域広域鳥獣被害 防止協議会)	山鹿市	R2～ R5	イノシシ	緊急捕獲	イノシシ(成獣) 2,883	山鹿市			銃猟又は罠猟による有害鳥獣捕獲 <イノシシ> R2:493頭 R3:612頭 R4:1,057頭 R5:708頭	8,000	17,868	-2664.1%	23.5	41.9	-1507.9%	有害鳥獣捕獲を毎年度実 施しているにも関わらず、 依然として農作物被害が多 い状況である。 また、令和5年度は、被害 金額及び被害面積ともに目 標値に達していないものが ほとんどである。 引き続き有害鳥獣捕獲を実 施していく。	防止柵の設置や捕獲の取 組は毎年度実施されてい る。目標が達成されてい ない状況については、要因を 分析するとともに引き続き 対策を行う必要があると思 われる。(熊本県県北広域 本部鹿本地域振興局農業 普及振興課 参事森和彦)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成 していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域 ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を 組み合わせた総合的な対策を推進してい る。現状でも、総合的な対策を意識しなが ら、対応いただいているが、ほ場周辺の環 境整備や柵の管理等について、より対策 を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るとい う考えは間違いだということを、防護柵を 設置する前に、集落内で情報共有し、地域 ぐるみで取り組む体制を強化する必要が ある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、 被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参 考にしていきたい。	
			カラス類	緊急捕獲	イノシシ(幼獣) 78				240	652	-6766.7%	3.0	2.1	315.0%					
			ヒヨドリ	緊急捕獲	シカ(成獣) 105				0	87	-	0.0	0.0	-					
			カモ類	緊急捕獲	その他 19				0	83	-	0.0	3.4	-					
			タヌキ						120	60	1100.0%	0.4	0.0	1950.0%					
			アナグマ						400	512	-239.4%	1.3	0.3	1833.3%					
			ハト類						0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%					
			ニホンジカ						0	27	-	0.0	0.1	-					
			アライグマ						0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%					
			イタチ						0	60	-	0.0	0.0	-					
			テン						0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%					
			キツネ						0	86	-	0.0	0.0	0.0%					

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
										計 8,760	計 19,435	計 -2,555.5%	計 28.2	計 47.9	計 -1,110.5%			で、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
山鹿市被害防止対策協議会	山鹿市	R2～R5	イノシシ カラス類 ヒヨドリ カモ類 タヌキ アナグマ ハト類 ニホンジカ アライグマ イタチ テン キツネ	侵入防止柵	WM柵 L=46,736m	山鹿市被害防止対策協議会	R2～R5	100%	・WM柵設置による農作物被害の減少 有害獣は防護柵沿いに歩くということを利用し、箱罟等による捕獲を実施することに寄与。	8,000 240 0 0 120 400 0 0 0 0 0 0 0	17,868 652 87 83 60 512 0 27 0 0 60 0 86	-2664.1% -6766.7% - - 1100.0% -239.4% 0.0% - 0.0% - - 0.0% -	23.5 3.0 0.0 0.0 0.4 1.3 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0	41.9 2.1 0.0 3.4 0.0 0.3 0.0 0.1 0.0 - - 0.0	-1507.9% 315.0% - - 1950.0% 1833.3% 0.0% - 0.0% - 0.0% -	WM柵の設置により、鳥獣(イノシシやアナグマ等)の侵入を防ぐことにより被害を防ぐ。 令和5年度については被害面積、被害金額ともに目標達成に至っていないものが多い。現状値から悪化しているものもある。今年度は市民を対象にした講習会を実施し、見回りによる柵の補修の重要性や、鳥獣対策は地域住民自身で行う意識を持っていただくべく、その中で長期的に被害を軽減できる方法を考えていきたい。	防止柵の設置や捕獲の取組は毎年着実に実施されている。目標が達成されていない状況については、要因を分析するとともに引き続き対策を行う必要があると思われる。(熊本県県北広域本部鹿本地域振興局農業普及・振興課 参事 森和彦) 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。	被害金額・被害面積とともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。
阿蘇市 (阿蘇市有害鳥獣捕獲協議会)	阿蘇市	R3～R5	ニホンジカ イノシシ ニホンサル カラス アナグマ カワウ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ 2,848頭 イノシシ(幼獣) 66頭 シカ 2,536頭 カラス 110羽 サル 0頭 アナグマ 135頭	阿蘇市有害鳥獣捕獲協議会			・鳥獣被害対策実施隊の活動	計 8,760 18,500 1,650	計 19,435 1,126 9,116	計 -2,555.5% 193.4% -337.1%	計 28.2 15.4 4.4	計 47.9 3.9 10.4	計 -1,110.5% 177.4% -37.5%	年々捕獲数は増加傾向にあり、現時点で捕獲者の維持はできている状況。被害面積は抑えられているものの、被害額では一部で達成できていない状況。高収益作物への被害が増加したものであると思われる。 土地利型作物の生産者に加え高収益作物の生産者も同様に、地域ぐるみの対策を講じる必要がある。勉強会や講習会の開催を積極的に実施するよう取組みを強化していただきたい。 (熊本県県北広域本部阿蘇地域振興局農業普及・振興課 班長 城 裕一)	ニホンジカについては、被害金額、被害面積ともに達成率が高くなった。イノシシに関しては、被害面積は減少したものの被害金額については増加するなど高収益作物への被害が増加傾向にあると思われる。 土地利型作物の生産者に加え高収益作物の生産者も同様に、地域ぐるみの対策を講じる必要がある。勉強会や講習会の開催を積極的に実施するよう取組みを強化していただきたい。 (熊本県県北広域本部阿蘇地域振興局農業普及・振興課 班長 城 裕一)	被害金額・被害面積とともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。
阿蘇市有害鳥獣捕獲協議会	阿蘇市	R3～R5	ニホンジカ イノシシ ニホンサル カラス アナグマ カワウ	有害捕獲	一斉捕獲 9回	阿蘇市有害鳥獣捕獲協議会			・三県合同による一斉捕獲により捕獲の効率向上、被害防止 ・鳥獣被害対策実施隊の活動	計 20,150 18,500 1,650	計 10,242 1,126 9,116	計 148.8% 193.4% -337.1%	計 19.8 15.4 4.4	計 14.3 3.9 10.4	計 128.5% 177.4% -37.5%	3県合同による一斉捕獲により、効果的な狩猟を実施。若手の技術向上も同時に育成している。 被害面積は達成できているものの、一部では被害額でも目標達成ができていない。従事者の高齢化、担い手不足に要因があると思われる。ICT等の導入により捕獲の効率化と捕獲率の向上を検討する必要がある。	被害面積に関しては減少傾向が見られるが、被害額に関しては増加見られ、高収益作物への被害増加が要因と思われる。 被害防止に向けた地域ぐるみの対策も実施するなど、被害防止に向けた活動を今後も継続して実施していただきたい。捕獲従事者の高齢化対策として、ICT機器等の導入に関しても有効な手段であるため導入を検討するなど情報収集を行いながら地域の実情に沿う方法で対策を講じてもらいたい。 (熊本県県北広域本部阿蘇地域振興局農業普及・振興課 班長 城 裕一)	被害金額・被害面積とともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
										計 20,150	計 10,242	計 148.8%	計 19.8	計 14.3	計 128.5%		課 班長 城 裕一	県内には、地域ぐるみで対策に取り組め、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 阿蘇市では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたいまた、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
南小国町 (小国郷鳥獣害 防止広域対策協 議会)	南小国町	R3～ R5	イノシシ ニホンジカ カラス類 サギ類 アライグマ	緊急捕獲 緊急捕獲 侵入防止柵	イノシシ 321頭 シカ 179頭 金網柵の設置 L=900m	小国郷鳥 獣害防止 広域対策 協議会	R4	100%	・有害鳥獣捕獲及び金網柵設置による水稻被害の減少 イノシシの被害状況については水稻への被害が中心であるが、目標に対して順調に被害を軽減することができている。これは捕獲対策と含めて電柵や金網柵、町民向けの勉強会などを通して、対策の効果がでてきたものと思われるが、耕作放棄地の増加や、獣害を受けにくい作物への転用など、水稻の生産量の減少も考えられる。 引き続き継続して対策を行っていく必要がある。	計 3,260 420 - 40 -	計 2,512 - - - -	計 153.0% - - - -	計 3.5 2.1 - - -	計 2.7 - - - -	計 153.3% - - - -	イノシシ、シカの捕獲頭数については年々増加傾向にあり、前計画期間である平成30年度から令和2年度までの捕獲頭数イノシシ平均101頭に対し、令和3年度から令和5年度平均131頭、シカにおいては35頭から68頭と大きく増加している。これらは捕獲活動の推進の成果ではあるものの、対象鳥獣の個体数の増加が影響として大きいものと思われる。 侵入防止柵の設置や捕獲の実施により被害面積、被害金額ともに減少し、対策の効果が見られている。 侵入防止柵設置後のメンテナンス等を行うなど、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取り組め、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 南小国町では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたいまた、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 南小国町では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたいまた、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	
産山村	産山村	R2～ R5	イノシシ ニホンジカ カラス類 サギ類	緊急捕獲事業 緊急捕獲事業	イノシシ 760頭 シカ 200頭	産山村			わなによるイノシシの捕獲(R2～R5) 成獣:70頭 幼獣:120頭 わなによるシカの捕獲(R2～R5) 成獣:50頭 実施隊員数 R2:23人 R3:31人 R4:29人 R5:33人	計 187 1,062 175 74	計 2,172 1,300 0 0	計 -2381.3% 47.7% 333.3% 338.7%	計 0.9 19.6 0.2 2.8	計 9.5 21.0 0.0 0.0	計 -2288.9% 83.3% 312.5% 333.3%	イノシシ、シカの捕獲頭数は増加傾向にある。大きい被害は、侵入防止柵を設置していない圃場に出ているが、近年は、農道、水路や畦畔等が被害にあっているため、農道、水路や畦畔も含めて侵入防止柵を設置するなどの対策が必要である。 今後は被害のある地域の見回りを行い、えつけストップ等の取り組みを推進し、集落ぐるみで被害防止対策を推進する必要がある。 捕獲者を増加させ、有害鳥獣の捕獲頭数を増加することが出来ているため、有害鳥獣を道路で見かけることが減ってきている。踏み場や放任果樹が付近にある農地は特に被害を受けやすい傾向にあるため、減らす取り組みが必要である。 (産山村農業委員会 会長 池部 誓)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 産山村では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	
産山村鳥獣被害 防止対策協議会	産山村	R2～ R5	イノシシ ニホンジカ カラス類 サギ類	侵入防止柵 侵入防止柵	箱わな(大型)導入 10基 電気柵設置 L=7,715m WM柵設置 L=6,629m	産山村鳥 獣被害防 止対策協 議会	R4～R5	100%	電気柵、WM柵を設置したことにより、設置した圃場の水稻被害が減少した。	計 187 1,062 175 74	計 2,172 1,300 0 0	計 -2381.3% 47.7% 333.3% 338.7%	計 0.9 19.6 0.2 2.8	計 9.5 21.0 0.0 0.0	計 -2288.9% 83.3% 312.5% 333.3%	イノシシ、シカの捕獲頭数は増加傾向にある。大きい被害は、侵入防止柵を設置していない圃場に出ているが、近年は、農道、水路や畦畔等が被害にあっているため、農道、水路や畦畔も含めて侵入防止柵を設置するなどの対策が必要である。	捕獲者を増加させ、有害鳥獣の捕獲頭数を増加することが出来ているため、有害鳥獣を道路で見かけることが減ってきている。踏み場や放任果樹が付近にある農地は特に被害を受けやすい傾向にあるため、減らす取り組みが必要である。	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
										計 1,498	計 3,472	計 -208.0%	計 23.5	計 30.6	計 30.3%	今後は被害のある地域の 見回りを行い、えづけスト ップ等の取り組みを推進し、 集落ぐるみで被害防止対 策を推進する必要がある。	(産山村農業委員会 会長 池部 誓)	防護柵の設置・管理については、引き続 き地域住民との連携が不可欠である。防 護柵を設置さえすれば被害は減るという考 えは間違いだということ。防護柵を設置 する前に、集落内で情報共有し、地域ぐ るみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、 被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参 考にしていきたい。
南阿蘇村	南阿蘇村	R3～ R5	イノシシ ニホンザル ニホンジカ アライグマ カラス	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ 1244頭 ニホンザル 24頭 ニホンジカ 1,399頭 アライグマ 0頭 カラス 0羽	南阿蘇村			罾によるイノシシの捕獲 R3:317頭 R4:254頭 R5:407頭 銃によるイノシシの捕獲 R3:59頭 R4:95頭 R5:112頭 罾によるサルの捕獲 R3:4頭 R4:5頭 R5:7頭 銃によるサルの捕獲 R3:2頭 R4:3頭 R5:3頭 罾によるシカの捕獲 R3:189頭 R4:89頭 R5:317頭 銃によるシカの捕獲 R3:247頭 R4:211頭 R5:346頭	8,786 3,126 479 0	10,591 545 1,438 0	52.1% 292.8% -367.8% 0.0%	8.6 1.6 0.9 0.0	5.7 0.1 5.3 0.0	178.5% 324.6% -1035.9% 0.0%	被害金額については目標 値を達成しているものの、 令和5年度においてはニホ ンジカによる被害が例年と 比べると顕著で、被害面積 の目標値達成には至らな かった。 国事業によるWM柵の設 置及び箱わなの導入等に より、効率的な有害捕獲が できるようになったことで捕 獲数は徐々に増加している が、事業を実施していない 地域では農林産物の被害 を受け続けている状況にあ るため、研修会や村広報等 による啓発活動に力を注い ている。	国庫事業の活用により侵入 防止柵等の設置でイノシシ の被害は低減出来ている が、サル、シカの被害対策 が追いついていない状況で ある。捕獲頭数も年々増え て対策の効果はみられてい るが、対象鳥獣の個体数増 加が被害の減少には至ら ない要因である。 今後の継続して地域ぐる みでの対策推進を実施して いただきたい。 (熊本県県北広域本部阿蘇 地域振興局農業普及・振興 課 班長 城 裕一)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成 しており、効果的に事業を活用し、被害軽 減につなげることができていると考えられ る。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域 ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を 組み合わせた総合的な対策を推進してい る。現状でも、総合的な対策を意識しな がら、対応いただいているが、ほ場周辺 の環境整備や柵の管理等について、より 対策を徹底していただきたい。
南阿蘇村鳥獣被害防止対策協議会	南阿蘇村	R3～ R5	イノシシ ニホンザル ニホンジカ アライグマ カラス	有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 侵入防止柵	箱わな導入 23基 免許取得講習会助成 13人 一斉捕獲活動役務費 220名 WM柵の設置 L=28,742m	南阿蘇村 鳥獣被害 防止対策 協議会	R3～R5	100%	罾によるイノシシの捕獲 R3:317頭 R4:254頭 R5:407頭 罾によるサルの捕獲 R3:4頭 R4:5頭 R5:7頭 罾によるシカの捕獲 R3:189頭 R4:89頭 R5:317頭 免許取得講習会助成による狩猟者の育成 R3:5人 R4:5人 R5:3人	8,786 3,126 479 0	10,591 545 1,438 0	52.1% 292.8% -367.8% 0.0%	8.6 1.6 0.9 0.0	5.7 0.1 5.3 0.0	178.5% 324.6% -1035.9% 0.0%	被害金額については目標 値を達成しているものの、 令和5年度においてはニホ ンジカによる被害が例年と 比べると顕著で、被害面積 の目標値達成には至らな かった。 国事業によるWM柵の設 置及び箱わなの導入等に より、効率的な有害捕獲が できるようになったことで捕 獲数は徐々に増加してい ない地域では農林産物の被害 を受け続けている状況にあ るため、研修会や村広報等 による啓発活動に力を注い ている。	国庫事業等の活用により 徐々に効果は見られている が、事業の未実施地域で の被害増加が見られるな ど、今後も事業の活用によ る対策が必要である。加 えて地域ぐるみの侵入防 止対策を継続して実施す ること効果が出ると思われ る。鳥獣個体数の増加に対 応するため今後も継続して 勉強会や講習会の開催に よる啓発活動も続けて頂 きたい。 (熊本県県北広域本部阿蘇 地域振興局農業普及・振興 課 班長 城 裕一)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成 しており、効果的に事業を活用し、被害軽 減につなげることができていると考えられ る。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域 ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を 組み合わせた総合的な対策を推進してい る。現状でも、総合的な対策を意識しな がら、対応いただいているが、ほ場周辺 の環境整備や柵の管理等について、より 対策を徹底していただきたい。
										計 12,391	計 12,574	計 96.6%	計 11.1	計 11.1	計 100.2%			

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
西原村	西原村	R3～ R5	イノシシ シカ 中型獣類 ニホンザル	緊急捕獲	イノシシ 522頭	西原村			・電気柵設置によるイノシシ・シカ被害の減少。	1,129	811	165.5%	0.8	1.8	-188.2%	現在、侵入防止柵を設置した箇所への被害報告等はないが、捕獲頭数の推移及び田畑被害の現状から、村内の鳥獣数は年々増えているのではないかと推測される。そのため、未対策の田畑に被害を及ぼす可能性があるため、鳥獣の出没箇所の把握及び捕獲活動の活性化を図り被害防止に努める。	侵入防止柵等の設置地域の関しては、効果が見られているが、未設置地域での被害が増加傾向にある。今後未設置地域に向けた地域ぐるみの対策が必要である。地域ごとに勉強会や講習会の開催など継続して実施していただきたい。 (熊本県県北広域本部阿蘇地域振興局農業普及・振興課 班長 城 裕一)	被害金額・被害面積とともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 西原村ではいも類の被害が大きい。作物収穫後の期間も、鳥獣を寄せ付けないよう収穫残遺はすぐに処分する等の対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
				緊急捕獲	シカ 560頭				・イノシシの捕獲頭数 R3:161頭 R4:163頭 R5:198頭	715	1,823	-260.9%	0.7	0.8	75.8%			
				緊急捕獲	アナグマ 142頭				・シカの捕獲頭数 R3:125頭 R4:121頭 R5:314頭	55	0	316.0%	0.0	0.0	333.3%			
				緊急捕獲	タヌキ 14頭				・アナグマの捕獲頭数 R3:52頭 R4:29頭 R5:61頭	0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%			
									・タヌキの捕獲頭数 R3:2頭 R4:9頭 R5:3頭									
									計 1,899	計 2,634	計 9.9%	計 1.5	計 2.5	計 -64.7%				
西原村鳥獣被害 防止対策協議会	西原村	R3～ R5	イノシシ シカ 中型獣類 ニホンザル	有害捕獲	箱罠導入 25基	西原村鳥 獣被害防 止対策協 議会	R4～R5	100%	・電気柵設置によるイノシシ・シカ被害の減少。	1,129	811	165.5%	0.8	1.8	-188.2%	現在、侵入防止柵を設置した箇所への被害報告等はないが、捕獲頭数の推移及び田畑被害の現状から、村内の鳥獣数は年々増えているのではないかと推測される。そのため、未対策の田畑に被害を及ぼす可能性があるため、鳥獣の出没箇所の把握及び捕獲活動の活性化を図り被害防止に努める。	鳥獣個体数の増加に伴い被害の増加が懸念されることから、被害防止対策の未実施地域に対し勉強会や講習会の開催による意識の造成が必要と思われる。今後も地域ぐるみの対策推進を継続して実施していただきたい。 (熊本県県北広域本部阿蘇地域振興局農業普及・振興課 班長 城 裕一)	被害金額・被害面積とともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 西原村ではいも類の被害が大きい。作物収穫後の期間も、鳥獣を寄せ付けないよう収穫残遺はすぐに処分する等の対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
				侵入防止柵	電気柵の設置 L=6,550m				・イノシシの捕獲頭数 R3:161頭 R4:163頭 R5:198頭	715	1,823	-260.9%	0.7	0.8	75.8%			
									・シカの捕獲頭数 R3:125頭 R4:121頭 R5:314頭	55	0	316.0%	0.0	0.0	333.3%			
									・アナグマの捕獲頭数 R3:52頭 R4:29頭 R5:61頭	0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0%			
									・タヌキの捕獲頭数 R3:2頭 R4:9頭 R5:3頭									
									計 1,899	計 2,634	計 9.9%	計 1.5	計 2.5	計 -64.7%				
八代市有害鳥獣 被害対策協議会	八代市	R3～ R5	イノシシ ニホンジカ タヌキ カラス類 カモ類 アナグマ バン類 アライグマ	有害捕獲	狩猟免許試験講習会受講費補助 18名	八代市有 害鳥獣被 害対策協 議会	R3～R5	100%	・罠によるイノシシの捕獲 R3:489頭 R4:1,152頭 R5:481頭	2,564	982	243.9%	0.7	0.5	163.6%	イノシシ、カモ類、アナグマ、バン類、ヒヨドリによる被害金額については、目標達成率の70%を大きく上回っており、事業実施による効果が現れたと考える。 一方、タヌキ、カラス類による被害金額が増加していることから、実施隊による捕獲活動や被害防除の取り組みをより一層強化する必要がある。 また、令和5年度は、ジビエ処理加工施設内に機材導入している。今後もジビエの利活用を推進していきたい。	シカ、イノシシについては、被害面積・被害金額ともに減少していることから、防護柵や罠の導入、捕獲活動等による被害軽減効果が継続して得られている。 特にカモ類については、令和2年度末に八代地域のJAや市町、共済組合と県で組織する八代地方鳥類被害防止対策連絡協議会を立上げ、関係機関一体となって、当該事業も活用し対策に取り組んだ結果、目標を上回る被害防止効果を得ている。 一方で、カラス類についても、被害面積・被害金額ともに増加しており、今後、更なる対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県県南広域本部農林水産部農業普及・振興課 主幹 大村 誠)	被害金額・被害面積とともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 八代市では野菜類の被害が大きい。作物収穫後の期間も、鳥獣を寄せ付けないよう収穫残遺はすぐに処分する等の対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要が
				有害捕獲	大型獣用箱わな 8基				・罠によるシカの捕獲頭数 R3:1,479頭 R4:1,551頭 R5:1,647頭	5,272	7,429	4.6%	15.5	1.6	307.0%			
				有害捕獲	小型獣用箱わな 3基				・罠によるタヌキの捕獲頭数 R3:6頭 R4:12頭 R5:10頭	2,271	5,576	-239.3%	0.6	0.3	252.4%			
				被害防除	鳥獣被害防止対策講習会・現地指導 3回				・罠によるアナグマの捕獲頭数 R3:20頭 R4:11頭 R5:16頭	2,974	6,110	-146.0%	1.0	1.8	-111.1%			
				被害防除	カモ撃退装置の導入(視覚的防除) 8個				・狩猟免許取得助成による狩猟者の育成 R3:11名 R4:3名 R5:4名	66,201	36,776	203.7%	17.3	11.2	181.9%			
				被害防除	鷹匠による技術指導・講習会 2回				・ジビエ利用量((株)DREAM EARTH) R5(4月～7月):635kg R5(4月～7月):750kg	995	0	333.0%	0.1	0.0	-233.3%			
				被害防除	研修会 2回				・取引先数((株)DREAM EARTH) R5:5者 R6(7月時点):10者	743	0	333.6%	0.2	0.0	322.2%			
				侵入防止柵	WM柵の設置 L=7,582m				・鳥獣被害防止対策講習会・現地指導 R3:3回									
				侵入防止柵	電気柵設置 L=5,949m				・鷹匠による技術指導・講習会 R4:2回									
				緊急捕獲	イノシシ(成獣) 3,006頭				・株式会社イノPによる研修会 R5:2回									
				緊急捕獲	シカ(成獣) 8,149頭				・カモ撃退装置の導入(視覚的防除) R4:8個									
				緊急捕獲	イノシシ(幼獣) 45頭													
				緊急捕獲	シカ(幼獣) 1頭													
				緊急捕獲	カラス類 879羽													
				緊急捕獲	カモ類 2500羽													
				緊急捕獲	バン類 355羽													
				緊急捕獲	タヌキ 24頭													
				緊急捕獲	アナグマ 45頭													

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
				処理加工施設の整備 処理加工施設の整備	乾燥機 2台 水分活性測定装置 1台				・防護柵設置による被害減少								ある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行 うと、逆に頭数を増やす結果となりうるの で、被害対策としての捕獲技術を習得する 場を設けるなど、新規狩猟者等に対する フォローを行っていただきたい。	
水俣市有害鳥獣 被害防止対策協 議会	水俣市	R3～ R5	イノシシ シカ アナグマ ヒヨドリ アライグマ	実施隊員の人材育成 新規猟銃取得支援 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 侵入防止柵	OJT研修:2名 猟銃購入:2丁 イノシシ:1,150頭 シカ:2,676頭 アナグマ:225頭 WM柵設置:L=6,160m	水俣市有 害鳥獣被 害防止対 策協議会	R5	100%	・イノシシの捕獲頭数 R3: 326頭 R4: 484頭 R5: 340頭 ・シカの捕獲頭数 R3: 729頭 R4: 841頭 R5: 1106頭 ・アナグマの捕獲頭数 R3: 64頭 R4: 60頭 R5: 101頭 ・OJT研修 射撃実射・分解講習、実猟講習:2名 ・新規猟銃取得 猟銃購入:2丁 ・侵入防止柵整備 新規整備:6,160m 設置による水田、果樹園の被害減少	計 81,020 769 17,651 0 0	計 56,873 3,094 1,118 161 823	計 169.5% -606.7% 318.6% - -	計 35.4 1.5 6.0 0.0 0.0	計 15.4 1.4 1.8 0.1 0.2	計 232.8% 109.5% 261.8% - -	緊急捕獲などにより有害 鳥獣の全体的な捕獲頭数 が増加し、対象鳥獣全てで 被害面積は目標値を概ね 達成されたと思われるが、 捕獲頭数および出没頻度 の増加から有害鳥獣全体 の生息頭数の増加が推測 されるため、今後も引き続 き対策を講じて被害防止・ 軽減に努める必要がある。 捕獲活動と併せて、R5年 度から取組を開始した侵入 防止柵設置、新規実施隊 員育成による捕獲体制強 化の継続はこれからも必要 と考えられ、加えて個々人 ではなく集落単位で非農家 も含めて地域一体となって 被害防止に取り組む必要 があると考える (熊本県南広域本部芦北 地域振興局農業普及・振興 課 主事 野村竜二)	緊急捕獲活動等の一定 効果により被害金額・被害 面積に係る目標値は概ね 達成されたと思われるが、 捕獲頭数および出没頻度 の増加から有害鳥獣全体 の生息頭数の増加が推測 されるため、今後も引き続 き対策を講じて被害防止・ 軽減に努める必要がある。 捕獲活動と併せて、R5年 度から取組を開始した侵入 防止柵設置、新規実施隊 員育成による捕獲体制強 化の継続はこれからも必要 と考えられ、加えて個々人 ではなく集落単位で非農家 も含めて地域一体となって 被害防止に取り組む必要 があると考える (熊本県南広域本部芦北 地域振興局農業普及・振興 課 主事 野村竜二)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成 しており、効果的に事業を活用し、被害軽 減につなげることができていると考えられ る。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域 ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を 組み合わせた総合的な対策を推進してい る。現状でも、総合的な対策を意識しな がら、対応いただいているが、ほ場周辺の環 境整備や柵の管理等について、より対策 を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続 き地域住民との連携が不可欠である。防 護柵を設置さえすれば被害は減るという考 えは間違いだということを、防護柵を設置 する前に、集落内で情報共有し、地域ぐる みで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、 被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参 考にしていきたい。 水俣市では果樹の被害が大きい。作物 収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないよう、 収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策 を行っていただきたい。また、防護柵の導 入にあたっては、適切な設置方法の普及 などソフト面の対策を強化していく必要が ある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行 うと、逆に頭数を増やす結果となりうるの で、被害対策としての捕獲技術を習得する 場を設けるなど、新規狩猟者等に対する フォローを行っていただきたい。
芦北町有害鳥獣 被害防止協議会	芦北町	R3～ R5	イノシシ ニホンジカ カラス類 ヒヨドリ アナグマ アライグマ	緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ 3,151頭 ニホンジカ 3,813頭	芦北町有 害鳥獣被 害防止協 議会			イノシシの捕獲頭数 R3: 717頭 R4:1,235頭 R5:1,199頭 ニホンジカの捕獲頭数 R3: 640頭 R4: 977頭 R5:2,196頭	計 18,420 2,500 1,000 500 500 300 0	計 5,196 19,171 22,805 37 638 352 0	計 267.5% -2580.2% -7266.6% 393.0% -137.9% 20.0% -	計 7.4 10.0 2.3 1.0 0.7 0.2 0.0	計 3.5 5.8 6.0 0.0 0.1 0.1 0.0	計 222.4% 268.0% -640.0% 600.0% 700.0% - -	イノシシ、ニホンジカの急 激な増加やR4年度からの 被害状況調査方法の変更 (生産者アンケートへの切り 替えや果樹の樹体被害の 追加など)により単純に比 較評価することはできな い。 しかし捕獲頭数の増加や ニホンジカの生息域の山側 (林地)から海側(農地)へ の推移などにより有害鳥獣 全体の増加が推測され、被 害総実績はその影響が表 れていると思われる。特に ニホンジカについては捕獲 頭数の増加具合から生息 数の急増が推測され、捕獲 強化による生息数調整だけ でなく環境整備や防護柵設 置による被害防止・軽減対 策が必要と考える。 今後も事業を有効活用し て被害防止・軽減に努め る。	全体の捕獲頭数は年々 増加しているが被害は減っ ておらず、特にシカの急増 に被害対策が追いついて いない状況。 既にイノシシ・シカの捕獲 圧強化(有害鳥獣捕獲許可 期間・範囲の拡大、シカ被 害協定によるくくり罠の無 償貸与など)、捕獲アプリの 導入による捕獲の効率化 が図られているが、GISに よる捕獲位置の把握、箱わ な等の導入による捕獲体制 強化も計画実施中であり、 従来取組いと組み合わせ る事で更なる捕獲強化を 期待する。 侵入防止柵設置も計画実 施中であるが、周辺の環境 整備や地域住民の被害防 止意識向上も含めた取組 による被害防止を期待す る。 上記対策も含め、個々人 ではなく集落単位で非農家 も含めて地域一体となって 被害防止に取り組む必要 があると考える (熊本県南広域本部芦北 地域振興局農業普及・振興 課 主事 野村竜二)	被害面積は、目標を達成 しており、事業 を活用し、おおむね被害軽減につなげるこ とができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域 ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を 組み合わせた総合的な対策を推進してい る。現状でも、総合的な対策を意識しな がら、対応いただいているが、ほ場周辺の環 境整備や柵の管理等について、より対策 を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続 き地域住民との連携が不可欠である。防 護柵を設置さえすれば被害は減るという考 えは間違いだということを、防護柵を設置 する前に、集落内で情報共有し、地域ぐる みで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、 被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参 考にしていきたい。 芦北町では果樹の被害が大きい。作物 収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないよう、 収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策 を行っていただきたい。また、防護柵の導 入にあたっては、適切な設置方法の普及 などソフト面の対策を強化していく必要が ある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行 うと、逆に頭数を増やす結果となりうるの で、被害対策としての捕獲技術を習得する 場を設けるなど、新規狩猟者等に対する フォローを行っていただきたい。
津奈木町有害鳥 獣被害防止対策 協議会	津奈木町	R2～ R5	イノシシ ニホンジカ カラス類 ヒヨドリ アナグマ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 有害捕獲	イノシシ 755頭 ニホンジカ 72頭 アナグマ 128頭 箱わな(大型)導入 6基	津奈木町 有害鳥獣 被害防止 対策協議 会			イノシシの捕獲 R2:142頭 R3:136頭 R4:218頭 R5:259頭 シカの捕獲 R2:2頭 R3:4頭 R4:7頭 R5:59頭 アナグマ R2:0頭 R3:28頭 R4:42頭 R5:58頭	計 4,800 122 - - -	計 43,003 7,232 2,682 0 0 0	計 -3,086.2% -8677.8% - - -	計 14.2 0.5 - - -	計 12.0 1.8 0.3 0.0 0.0	計 162.9% -290.9% - - -	イノシシの被害につい て金額及び面積共に目標値 を大きく下回る結果となり、 また近年はニホンジカに関 しても被害が増えている。 捕獲頭数の増加と合わ せて地域における有害鳥 獣全体の生息頭数増加が 推測され、今後も引き続 き被害防止対策が必要であ る。 緊急捕獲事業において、 イノシシは年ごとに捕獲頭 数も多くなっているが、ニ ホンジカの捕獲頭数もR4年 度に比べ約8倍と大幅に増加 しているため、今後はシカ 捕獲にも注力する必要がある。 (津奈木町議会議長	近年、イノシシやシカとい った有害鳥獣の増加、捕獲 従事者の高齢化が問題と なっている。また、有害鳥獣 の捕獲数も増加しており 、罠の管理や捕獲後の処理 等に苦慮されていると聞く。 そのため、広域的な共同処 理施設の検討ができない か、また、捕獲従事者の高 齢化も進む中で、新規捕獲 従事者や、スマホや無線機 といった電子機器等を活用 した労力軽減策への導入 補助等についても拡充して いく必要があるのではない か。 (津奈木町議会議長	被害金額・被害面積ともに、目標を達成 していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域 ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を 組み合わせた総合的な対策を推進してい る。現状でも、総合的な対策を意識しな がら、対応いただいているが、ほ場周辺の環 境整備や柵の管理等について、より対策 を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るとい う考えは間違いだということを、防護柵を 設置する前に、集落内で情報共有し、地域 ぐるみで取り組む体制を強化する必要が ある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、 被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参 考にしていきたい。

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
										計 122	計 9,914	計 -11,988.9%	計 0.5	計 2.1	計 -384.8%	有害鳥獣捕獲の従事者の高齢化が課題となっており、若手農業者による捕獲も推進してはいるものの、農業との両立は難しいように感じる。 現状の被害状況も踏まえて、捕獲・従事者育成の更なる強化を進める必要がある。	柳道 対策)	津奈木町では果樹の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないよう、収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
錦町有害鳥獣被害対策協議会	錦町	R2～R5	イノシシ シカ サル アナグマ カラス類 ヒヨドリ カワウ	有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 被害防除 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 侵入防止柵	笠松式くくりわな 250基 初心者講習会受講料補助 18名 イノシシ・シカ兼用囲い罠 1基 イノシシ・シカ兼用箱罠 12基 アナグマ用箱罠 47基 くくりわな資材 2式 追払い活動の実施 91回 イノシシ 536頭 シカ 1,192頭 サル 70頭 アナグマ 165頭 カラス類 414頭 ヒヨドリ 5,499羽 電気柵の設置 L=1,310m	錦町有害鳥獣被害対策協議会	R2	100%	○くくりわな導入後の総捕獲頭数 ・イノシシ R2・137頭 R3・154頭 R4・149頭 R5・240頭 ・シカ R2・279頭 R3・370頭 R4・478頭 R5・628頭 ・サル R2・19頭 R3・20頭 R4・20頭 R5・17頭 ・アナグマ R2・41頭 R3・32頭 R4・42頭 R5・45頭 ○箱罠によるイノシシ・シカの捕獲 R3、R4、R5ともに捕獲実績無し ○箱罠によるアナグマの捕獲 R3・15頭 R4・14頭 R5・7頭 ○初心者講習会受講料補助による狩猟者の育成 わな免許 R2・7名 R3・3名 R4・2名 R5・2名 第一種銃猟 R2・0名 R3・0名 R4・1名 R5・1名 第二種銃猟 R2・4名 R3・0名 R4・0名 R5・0名 OR2電気柵設置によるイノシシ被害の減少	180 89 221 168 0 0	752 0 2,123 1,947 235 97	-23.5% 139.1% -250.9% -331.8% - -	0.3 0.1 0.0 0.0 0.0 0.0	1.1 0.0 0.0 0.0 0.1 0.0	3.7% 140.0% 91.7% - -1000.0% -	●イノシシについてはR3に箱罠、R5にくくりわなを導入し、捕獲実施隊に貸出を行うことで捕獲頭数は増加している。しかし、被害面積・被害金額ともに増加していることから、生息数の増加がうかがえる。 ●シカについてもイノシシ同様、導入したわなを実施隊に貸出しを行ったことで捕獲頭数の増加している。しかし、森林資源への剥皮被害が見受けられるため、さらなる捕獲強化が求められる。 ●サルについては、くくりわなの貸出しと追払い活動を並行して行い被害軽減に努めた。しかし令和5年度においてはイチゴへの被害が発生し被害金額の大幅な増加となった。 ●アナグマについては、R3・R5で導入した箱罠の貸出しを行い被害軽減に努めたが、サルと同様にイチゴへの被害が発生し多額の被害額となった。 ●カラスについては、実施隊の捕獲活動と追払いを並行して行い被害軽減に努めたが、果樹園の密集地帯で被害が発生した。 ●ヒヨドリについては捕獲活動と追払いを並行して行い被害軽減に努めた。R5は飛来数が少なかったためか被害額・面積は減少した。	・農作物被害の軽減のため、対象鳥獣の緊急捕獲に取り組まれている。 ・しかし、イノシシによる被害額は、現状値、目標値を上回っている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 宮崎 徹)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 錦町では野菜の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないよう、収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。なお、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
水上村 (水上村鳥獣被害防止協議会)	水上村	R3～R5	ニホンジカ イノシシ ニホンザル ノウサギ カラス類 アナグマ カワウ アライグマ	侵入防止柵 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	ワイヤーメッシュ柵の設置 L=1,750m シカ 2,335頭 イノシシ 952頭 サル 1頭	水上村・水上村鳥獣被害防止協議会	R3	100%	ワイヤーメッシュ柵設置による、シカ・イノシシ等の鳥獣被害の減少 捕獲実績 【捕獲年度毎(4月～3月)】 ○令和3年度 シカ 875頭 イノシシ 300頭 サル 1頭 ○令和4年度 シカ 793頭 イノシシ 300頭 ○令和5年度 シカ 708頭 イノシシ 381頭 サル 1頭	2,900 207	10,652 368	-496.3% -73.1%	13.4 0.2	16.6 0.8	48.0% -381.8%	年度毎の捕獲頭数は若干の減少傾向である。実績年度(令和5年度)においては被害金額が目標まで届かなかったものの、ニホンジカの被害面積減少については、目標値を上回っている。 シカ被害については山林への被害が大多数を占めており、被害面積の把握状況により実績値が大きく変動してしまっている。 イノシシについては、近年、捕獲数が増えており、今まで被害がなかった地域からも被害報告や捕獲が上がっている。生息状況を確認し、計画的な捕獲や計画の見直しが必要となる。	・農作物被害の軽減のため、対象鳥獣の緊急捕獲に取り組まれている。 ・しかし、ニホンジカ、イノシシによる被害額は、現状値、目標値を上回っている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 宮崎 徹)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 水上村では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
										計 3,107	計 11,020	計 -468.1%	計 13.6	計 17.3	計 40.4%			

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
山江村 (山江村鳥獣被害防止対策協議会)	山江村	R2～ R5	イノシシ	緊急捕獲	イノシシ1, 242頭	山江村			イノシシ	395	1,350	-384.8%	0.3	1.4	-791.7%	R5年度は鳥獣被害が多く、また、被害農家からも多くの声が拾えるようになったため、被害金額、面積ともに増加した。整備事業を行った場所に関しては被害は出ていないため、今後の侵入防止柵等の整備事業により、被害を食い止めることが必要であると考え	・農作物被害の軽減のため、対象鳥獣の緊急捕獲に取り組まれている。 ・しかし、イノシシ、シカ、サルによる被害額は、現状値、目標値を上回っている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 宮崎徹	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。
			ニホンジカ	緊急捕獲	シカ3, 234頭				R2:169頭 R3:336頭 R4:526頭 R5:211頭	182	1,248	-485.7%	0.7	1.4	17.6%			
			サル	緊急捕獲	サル67頭				R2:662頭 R3:817頭 R4:952頭 R5:803頭	81	244	-101.2%	0.2	0.3	11.1%			
			アナグマ	緊急捕獲	アナグマ323頭				R2:8頭 R3:12頭 R4:31頭 R5:16頭	36	60	35.1%	0.0	0.0	-50.0%			
			カラス類	緊急捕獲	カラス22羽				R2:74頭 R3:84頭 R4:89頭 R5:76頭	0	7	46.2%	0.0	0.0	0.0%			
			カワウ						R2:6羽 R3:4羽 R4:7羽 R5:5羽									
										計 694	計 2,909	計 -334.3%	計 1.2	計 3.1	計 -75.7%			
山江村鳥獣被害防止対策協議会	山江村	R2～ R6	イノシシ	侵入防止柵	WM柵 L=2,070m	山江村鳥獣被害防止対策協議会	R3～R5	100%	・電気柵、防護ネットの設置によるシカ、イノシシ等の被害の減少	395	1,350	-384.8%	0.3	1.4	-791.7%	R5年度は鳥獣被害が多く、また、被害農家からも多くの声が拾えるようになったため、被害金額、面積ともに増加した。整備事業を行った場所に関しては被害は出ていないため、今後の侵入防止柵等の整備事業により、被害を食い止めることが必要であると考え	・農作物被害の軽減のため、対象鳥獣の緊急捕獲に取り組まれている。 ・しかし、イノシシ、シカ、サルによる被害額は、現状値、目標値を上回っている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 宮崎徹	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。
			ニホンジカ	侵入防止柵	電気柵(5段) L=5,655m					182	1,248	-485.7%	0.7	1.4	17.6%			
			サル							81	244	-101.2%	0.2	0.3	11.1%			
			アナグマ							36	60	35.1%	0.0	0.0	-50.0%			
			カラス類							0	7	46.2%	0.0	0.0	0.0%			
			カワウ															
										計 694	計 2,909	計 -334.3%	計 1.2	計 3.1	計 -75.7%			

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
球磨村 (球磨村鳥獣被害防止協議会)	球磨村	R2～R5	イノシシ	緊急捕獲	ニホンジカ 4051頭	球磨村			銃器及び罠でのニホンジカの捕獲	1,010	10,153	-287.7%	1.1	43.5	-1498.9%	捕獲頭数について、年々上がっているところであるが、被害状況も増えているところである。 ・今後も捕獲頭数の維持をし、農作物被害対策につなげていく。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 宮崎徹)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 球磨村では果樹の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないよう、収穫残査はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。なお、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	
			ニホンジカ	緊急捕獲	イノシシ(成獣) 619頭				R2 641頭 R3 850頭 R4 1182頭 R5 1378頭	16,530	46,886	21.4%	12.0	35.8	14.9%			
			ニホンザル	緊急捕獲	イノシシ(幼獣) 110頭				R2 141頭 R3 190頭 R4 135頭 R5 153頭	350	5,154	-494.6%	0.2	4.4	-8333.3%			
			カラス類	緊急捕獲	ニホンザル 53頭				銃器及び罠でのイノシシ(成獣)の捕獲	190	824	-44.4%	0.1	0.4	-200.0%			
			カワウ	緊急捕獲	アナグマ 323頭				銃器及び罠でのイノシシ(成獣)の捕獲	-	-	-	-	-	-			
									銃器及び罠でのイノシシ(成獣)の捕獲	-	-	-	-	-	-			
									銃器及び罠でのイノシシ(幼獣)の捕獲	-	-	-	-	-	-			
									銃器及び罠でのニホンザルの捕獲	-	-	-	-	-	-			
									銃器及び罠でのニホンザルの捕獲	-	-	-	-	-	-			
									銃器及び罠でのアナグマの捕獲	-	-	-	-	-	-			

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
熊本県	熊本県 全域	R5	イノシシ シカ等	人材育成活動 ジビエ利用拡大	被害防止対策にかかる指導者育成研修 広域捕獲活動 ジビエ処理技術向上にかかる研修 フェア等による販売促進活動				・被害防止対策にかかる技術指導者育成研修 「えづけSTOP！実践塾」を全3回で開催。鳥獣被害対策を担当する市町村職員や県出先機関職員延べ89名が参加（1回目：24名、2回目：33名、3回目：32名）。実践塾参加者のうち、25名を「えづけばやめなん隊」に認定。 ・広域捕獲体制の整備 広域的な体制整備につなげるため、芦北地域では県、市町、関係団体が一体となって取り組むため「芦北地域鳥獣被害防止対策広域協議会」が設立された。また、菊池地域においてシカの生息状況調査を実施し、今後の推進体制の整備に繋げた。 ・フェア等による販売促進活動 「くまもとジビエ料理フェア2023」を開催し、県内レストラン等60店舗が参加。コロナ禍の令和2年度から2倍以上の売上げを達成している。また、フェア開催後に行ったアンケートでは、参加店舗の過半数がフェア開催により「ジビエ料理の売上げが上がった」と回答するなど、ジビエの認知度向上及び販売促進に繋がった。						事業効果については一定の成果はあげられていると考える。 熊本県では、有害捕獲、被害防除、生息環境管理等の取組みを総合的に実施、積極的に農業者以外の地域住民を含めた地域ぐるみの被害対策に取り組んでいる。また、鳥獣から守れる田畑、集落をつくる取組みを「えづけをやめる」取組みとして推進している。 県内には被害を止めた成功事例や若手農家の活動組織が発足する等、新たな取組も生まれており、その新たな取組みが県内外に波及しつつある。 本県では、重要な課題に「担い手育成」を位置づけ、有害捕獲、被害防除とともに現地研修を含めた実践的な研修を実施し、現場で活躍する人材育成に取り組んでいる。 特に、農林水産省が主催する令和4年度鳥獣対策優良活動表彰で、被害防止部門で天草市の方原集落が、捕獲鳥獣利活用部門で宇城市の株式会社イノPが農村振興局長賞を受賞し評価を受けている。 今後、県内の優良事例を横展開し波及する取組みを進めて参りたい。 また、最近ではシカ被害が増えているため、関係市町村と連携しながら広く情報収集し対策に取り組んでいく。	鳥獣対策といえ非常に広範囲であり明確な方針を定めることは難しい。熊本県では5年ほど前から「えづけSTOP!」を合言葉に掲げ、住民や農家が野生動物が好む環境を作らないための自助努力の必要性を啓蒙しているのは素晴らしいと思う。 被害を受けると「野生動物のせいって、、、」と多くの人が考えるがまず自分達が寄せ付けていないか、を座学の中で年配の方にも理解できるよう動画なども作成し分かりやすく示している。 また「えづけSTOP！実践塾」では市町村の担当者などが鳥獣対策を実践的に学べる場が設けられており、各地域への指導に生かされている。被害額が増えているように見えるが、県内の自治体がより精緻に被害について調査をはじめた現れではないかと考えている。 同塾の講師を務めた農家ハンターは苦労しながら、農家と鳥獣対策を両立しているからこそ、地域住民などにも理解、共感されやすいのではないと思う。県では鳥獣被害防止対策強化月間を設定しており、ラジオで県民や農家の方に広報を行っているため、発信方法を工夫しながら、今後も引き続き継続してもらいたい。 また新たな脅威としてイノシシに次ぐ農作物被害を近年出すようになったカモ対策についても、県が率先して情報収集や対策に乗り出している。また、シカ被害についても深刻化しつつあり、全国に先駆けた効果的な対策作りに私たちも力を合わせていきたい。 いずれにしても鳥獣対策にウルトラCはないし、これからは先も野生動物との関わりがなくなることはない。だからこそ今足りないのは「地域と畑を守る」住民であり、その担い手作りを目標に掲げる熊本県の取組みがさらに広がることを期待したい。 (農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 稲葉 達也)		

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5 都道府県による総合的評価

今回の評価報告対象の19市町村(うち再評価9市町村)のうち7市町村(事業評価7市町村)において、被害防止計画目標の達成率の目標を達成しており、事業効果については一定の成果はあげられていると考える。しかし、対策が不十分であった地区へ被害の拡大が見られたり、これまで報告が少なかった鳥獣による被害が報告されたりと、より一層の対策強化が求められる。本県では、以前から捕獲・防除・生息環境管理に係るソフト・ハードの取組みを総合的に実施していくとともに、積極的に農業者以外の地域住民を含めた地域ぐるみの被害対策に取り組んでいる。また、住民自らが鳥獣から守れる田畑、集落づくりを行う、「えづけをやめる」取組みとして推進しているところ。県独自の取組みとして、モデル地区支援や各種研修の開催等を実施し、全国優良活動表彰で賞を受賞する集落も出てきている状況。平成29年度から本交付金を活用し、通年カリキュラムの体系的な人材育成研修等を開催し、現場で活躍できる人材の育成により一層注力している。これらの取組みを通じ、県下市町村にも「えづけをやめる」という考えが浸透し、モデル地区を中心に被害を止めた成功事例が県内各地にでき、大きな成果を挙げつつある。また、モデル地区を先進事例とし、地域間で鳥獣被害対策が波及し始めているところ。 鳥獣被害防止総合対策交付金を有効に活用し、被害軽減につなげるためにも、今後ともより一層県、市町村、地域が連携し、地域ぐるみの総合的な対策を実施していく。
--